

式 辞

暖かい春の日射しの輝く季節となり、校内の木々の緑も日に日にその濃さを増しつつある今日の佳き日、多数のご来賓のご臨席と保護者のご列席をいただき、ここに第七十四回入学式を挙げていくことは、私たち教職員一同、この上ない喜びであります。

新入生の皆さん、入学おめでとう。また、本日まで新入生の成長を支え、今日のこの日を待ち望まれていた保護者の皆さん、ご入学、おめでとうございます。

晴れて難関を突破して、栄光の合格を勝ち取った皆さんの本日のこの喜びは、皆さん一人ひとりの努力の証であると同時に、ご家族、教えを受けた先生など、多くの方々の支えがあったことを忘れてはなりません。本日から高校生活の新しい第一歩を踏み出すに当たり、これらの方々のご恩に報いるためにもより一層の努力を期待します。

本校は明治三十二年に創立された宮崎県立延岡中学校をその始まりとし、併せて延岡高等女学校の誇り高い伝統を引き継いで、県北の進学校としての歴史を重ねてきた、県内でも屈指の伝統校であります。卒業生には国民的歌手の若山牧水、日本初の民間人パイロットとして数々の偉業を成し遂げた後藤勇吉をはじめとして、幾多の人材を輩出してきた歴史を持っています。

また、今年本校は創立百二十周年を迎えます。その意義は、令和元年のこの記念すべき年に伝統を深め、進化させる、ということでもあります。

ここで、本校のよき伝統を3つ紹介いたします。

まず、「ユーモア」の精神です。様々な場面で、周囲を喜ばせようという思いのもと、笑いを忍ばせる精神は、イギリス紳士の伝統であるユーモア&ウィットにも通じるものがあります。この精神によって本校は、学ぶことが楽しいと感じられる場所になっているのではないかと感じています。

次に、「前年の先輩を少しだけ超える」という姿勢であります。その姿勢が一番よく表れるのが本校伝統の文化祭、「萌樹祭」です。その姿勢と、生徒と教職員の絶え間ない努力の結果、本校の文化祭は県内外にその評判を鳴り響かせるものとなりました。

最後に、「教職員との距離感の近さ」です。本校の教職員はその情熱と粘り強さで一人ひとりの生徒に寄り添い、目標を共有し、その実現に向けて努力しています。その指導の手厚さが生徒との距離感の近さに繋がっているのだと思います。

さて、新入生の皆さんに、高校入学という節目に当たり、次のメッセージを贈ります。それは、「本を読み、人に会い、旅に出でよ」というものです。このメッセージに込めた意味は、知識を深め、人と話し、新しい価値観に触れよう、ということです。

本は知識を得る方法の代表であります。学びは、本を読むという行為が象徴するように、知識を吸収することから始まります。さらに、知識を吸収する方法が、人と話すこと、そして旅に出ることです。

人と話す、この行為は自分が話すという能動的動作と、相手の話を聞くという受動的動作が同時に行われます。自分の考えを確認しながら、相手から知識を得ることになります。学びの方法として、最も効果的なものと言えるでしょう。

その際、気をつけてほしいことがあります。それは、いろいろな人と話す、ということです。多様な人と話すということは、すなわち多様な価値観に触れるということです。

旅に出る、という行為もまた多様な価値観に触れる行為です。そのことによって我々は、自らの価値観が揺さぶられ、その結果、新しい気づきをもち、新しい学びを得ることになるのです。

「本を読み、人に会い、旅に出でよ」新入生の皆さん、この言葉を心に留めながらこれからの高校生活を送ってください。

最後に、新入生の保護者の皆様一言御挨拶を申し上げます。家庭教育と学校教育とは、子供を教え育てる上で、まさに車の両輪であります。子供達が大人への仲間入りを始めるこの時に、学校と家庭とが協力して、温かくかつ厳しく接していくことが、必ずや人間的成長や学力の向上につながることを、共に肝に銘じたいと思います。

延高のよき伝統である、教職員と生徒の強い信頼関係を生かして、私たち教職員一同は、お預かりした生徒一人一人を大切にしながら、三年間教え導くことをお約束いたします。

それでは、新入生の皆さんが、失敗を恐れず挑戦の日々を、この延高で送られるよう、心から祈念しまして、式辞といたします。

平成三十一年 四月十日

宮崎県立延岡高等学校 校長 宮野原 章史